将来構想委員会報告書の発刊に寄せて

日本海洋学会 2011・2012 年度
会長　花輪　公雄　・　副会長　津田　敦

日本海洋学会将来構想委員会における 2012 年年初以来の精力的な議論に基づき，今後 10 年程度を見据えた我が国における海洋学の構想がまとまったので，ここに紹介する。これまで，個人の立場や，競争的資金獲得のために特定グループの検討結果が公表された例はあるものの，学会が主導し海洋学全体を俯瞰したうえで将来計画を検討・構想したことは，今回が初めての試みであろう。まずこの報告書が生まれた背景について述べる。

日本学術会議の課題別委員会の一つである科学者委員会「学術の大型研究計画検討分科会」（以下，大型研究分科会と略記）は，2010 年 3 月 17 日に提言「学術の大型施設計画・大規模研究計画－企画・推進策の在り方とマスタープラン策定について－」と題する報告書を公表した。この中には，地球惑星科学分野に関連する 6 計画を含む 43 の大型計画が取り上げられた。しかしながら，この提言公表後多くの分野で，この提言には学会コミュニティの意見が必ずしも十分反映されておらず，この公表は拙速ではなかったのかとの批判的な声があった。地球惑星科学委員会がカバーする諸分野でも，同じような意見があった。実際，本学会関係でも，学会に直接意見の提出依頼がなかったことを主な要因として，気候研究に焦点を絞った気象学や海洋学に関するプランは取り上げられているものの，海洋学会の総意が十分に汲み取られたものではなかった。

このため，大型研究分科会では，2011 年 5 月に，3 年ごとに改訂するとの当初の計画を改め，2011 年中にも小改訂を行うことを決定した。これを受け，地球惑星科学委員会 SCOR 分科会（当時の委員長は池田元美会員）と海洋学会幹事会の有志は合同で，将来の大型計画に関する「海洋学の将来を考える懇談会」を，2010 年夏に仙台・東京・福岡の 3 カ所で開催し，海洋コミュニティとしての対応を協議した。そして，海洋コミュニティは上記懇談会等の議論を踏まえ，小改訂に際して「海洋環境保全を担う統合観測システムの開発と構築」と題する研究船建造を中心とした計画を 2011 年 3 月に提出した。その後ヒアリング等を経て，幸いにもこの計画は採択され，2011 年 9 月に，大型計画分科会から報告「学術の大型施設計画・大型研究計画マスタープラン 2011」として公表された。この中には，地球惑星科学関係の 6 課題を含む全 46 課題が取り上げられている。

ただ，この計画の策定にあたっては，会員有志が自主的に集い活発な議論を行ったとはいえ，時間的制約もあり，海洋の物理学から，化学，そして生物学まで，幅広く意見を聴取して練った計画であるとは必ずしも言えない面もあったことも確かである。

このような状況に鑑み，2012 年 1 月の海洋学会幹事会において，2013 年秋に予定されている次のマスタープラン改訂に向けた準備として，「将来構想委員会」を幹事会のもとに常設し，2012 年秋をターゲットに学会としての将来構想を策定することを決めた。すなわち，大型研究計画の公募如何にかかわらず，まずは学会としてここ 10 年を見据えた将来構想を描き，それに基づいて改訂が予定されている大型計画を考えよう，とのシナリオを策定した。

この将来構想委員会の下には，物理・化学・生物の 3 つのサブグループ（SG）を置き，2011-12

校閲前草稿

年度幹事会メンバー15 名に，40 歳代を中心とする中堅研究者各 5～10 名程度を加えたメンバーで，実質的な議論を行うこととした。各 SG は 2012 年 3～12 月にそれぞれ何回かの会合を開いたほか，2012 年 9 月（秋季大会時）と 2013 年 2 月に合同会合を開催した。これらの会合では，マスタープラン改訂のみにとらわれることなく，「我々は 10～20 年後に何を成し遂げるのか」を念頭に，サイエンスに基づいた将来構想の議論を行っている。

本特集号では，これらの議論から生まれた内容を，物理・化学・生物の 3SG からそれぞれ報告するものである。

なお，現在（2013年3月中旬）の予定では，マスタープランの改訂は，この2月に公募開始され，4月初めには地球惑星科学分野のヒアリングが行われる予定である。海洋学会からは大形計画に3SGの報告書を添えて応募予定である。この応募に先立ち， 1月には報告書，3月にはマスタープランの草案を会員に公開し，意見聴取を行った。また，3月の春季大会期間中には，報告のためのシンポジウム「海洋学の10年後を考える」を開催することとしている。

本報告書が多くの会員の皆様に供覧され，大型計画マスタープランに限らず，広く会員の研究活動に利用されることを期待したい。また，将来構想委員会が今後も継続的な活動を行い，より長期的な将来構想を行っていくこと，また，より学際的な取り組み，あるいは，他分野とのより具体的な連携を提案していくことを期待したい。

将来構想委員会メンバー（2013 年 1 月現在）

2011-12 年度幹事会： 花輪公雄（会長），津田敦（副会長），岩坂直人，岡英太郎（物理 SG 長），小川浩史，川合義美，河宮未知生，神田穣太（化学 SG 長），久保田雅久，島田浩二，杉崎宏哉，中野俊也，浜崎恒二（生物 SG 長），日比谷紀之，寄高博行

物理 SG： 磯辺篤彦，市川香，伊藤幸彦，大島慶一郎，須賀利雄，羽角博康，升本順夫，見延庄士郎，早稲田卓爾

化学 SG： 石井雅男，小埜恒夫，小畑元，川合美千代，鈴村昌弘，本多牧生，山下洋平，渡邉豊

生物 SG： 石坂丞二，斉藤宏明，鈴木光次，高橋一生，千葉早苗

＜参考資料＞

(1) 日本学術会議 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会，2010.3.17：
提言「学術の大型施設計画・大規模研究計画－企画・推進策の在り方とマスタープラン策定について－」
要旨と本文：http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t90-2.pdf
資料（課題一覧）：http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t90-2-2.pdf

(2) 日本学術会議 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会，2011.9.28：
報告「学術の大型施設計画・大型研究計画マスタープラン 2011」
要旨と本文：http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-h135-1.pdf
資料１（課題一覧）：http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-h135-1-2.pdf
資料２（課題説明）：http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-h135-1-3.pdf

投稿前草稿